

# 第一節 指導内容

## 第四項 家庭や地域生活，将来に向けての指導内容

自閉症の人たちが家庭や地域で自立的な生活を送れるように，自分の身の周りのことや，生活していく上で最低限必要となることを，幼少期の頃から将来を見据えて指導していくことは，とても大切なことです。規則正しい睡眠リズムの確立，偏食の無いバランスの良い食生活など，健康的な生活習慣を確立していくことは将来のQOL（Quality of Life；生活の質）を高めていくことにつながります。また，着替えや排泄などの身辺処理能力を高めていくことは，自立的な生活を営んでいく上で不可欠な領域となります。こうした内容は日常生活の指導などと関連するものですが，基本的に家庭生活との関連が大きい内容であるため，保護者や家族の人と協力しながら進めていくことが必要となるでしょう。

また，家庭や地域の中で自立的な生活を営んでいくためには，日常生活に必要なさまざまな生活スキルを身につけていくことも重要です。対象となる子どもの生活年齢や発達段階を考え，家庭と協力して将来の生活に必要な知識やマナー，技能などを段階を追って指導していくことが望めます。

指導に際しては，自閉症の子どもの特性（人と接することや相手の気持ちを読みとることが苦手である，言葉だけの指示では意味や内容が理解しにくい，興味や関心が広がりにくく，社会のルールやマナーなどの抽象的な内容が理解しにくい）を考え，指導の手だてを明確にしていくことや，教科別の指導，領域・教科を合わせた指導として，実際の体験を通した指導を心がけていくことが大切です。

以下に，将来，地域で生活していく上で役立つと考えられる生活スキルの内容について，実践例をもとに述べていくことにします。

### 1. 公共機関の利用

銀行や郵便局，図書館や公民館などの公共機関の役割を理解したり，その利用方法を身につけることは，地域で生活していく上で必要となる内容です。学校の地域性にもよりますが，近くに銀行や信用金庫などの金融機関があれば，例えば，修学旅行費の積み立て金を毎月，クラス単位で納めに行き，振り込み用紙の書き方や窓口での伝え方，クレジットカードの利用方法について，実際の体験を通して，繰り返し学習していくことも大切です。

### 2. 登下校の自立

知的障害養護学校の高等部では，自力で通学する子どもが多い状況にありますが，一人で通学できるケースもあれば，保護者が学校の近くまで送り迎えをするケースもあり，個人の生活スキルや発達段階によって各々異なっています。将来の自立的な生活を考えていく場合，安全面に十分配慮しながら，自力での登下校の範囲を広げていく取り組みも必要となります。家庭と協力して

いくことはもちろんですが、学部や学年で協力し合い、一人で歩く距離を徐々に伸ばしたり、電車やバスなどの交通機関を自力で利用するなど、子どもの実態を考慮して、登下校の自立を進めていくことが大切です。

### 3. 電車やバスなどの交通機関の利用

電車やバスなどの交通機関を利用するには、目的地までの行き方を覚えるだけでなく、交通費や時間の確認、時刻表の読みとり、地図の見方、信号や交通標識の理解、時間や料金を考えて幾つかあるルートの中から適切なルートを選ぶ力など、さまざまな能力が関係しています。遠足や校外学習など、学校行事や学部行事で外に出る機会を利用し、幾つかの基本情報を子どもたちに提供して、自分たちで時間や費用を考えながら、目的地までのルートを計画させていく取り組みなども必要となるでしょう。また、自閉症の子どもの特性に配慮して、あまり多くのことを一度に指導するのではなく、年間の指導計画に沿って、一つ一つの内容を確実に身につけられるように計画を進めていくことが大切です。

### 4. 買い物スキル

食生活に関係する内容として、買い物や調理などの家事スキルは大切な指導内容の一つです。金額や金種の理解など、算数や数学に関する能力も必要ですが、最近ではプリペイドカードやクレジットカードで引き落としのできる店舗も増えているため、比較的良好に利用するお店で、家族の人と一緒に品物を選んだり、実際にレジでお金やカードを使って品物を買う経験を積んでいくことが大切です。小学部低学年であれば、クラスで「買い物ごっこ」などの授業を計画し、金銭のやりとりに慣れたり、生活単元学習として、実際に商店街やデパートに買い物に行き、目的の品物を購入するなどの取り組みも必要でしょう。

### 5. 簡単な調理や作業のスキル

養護学校の中学部、高等部段階になると、職業・家庭科の内容を調理や木工、陶芸、紙工などの作業学習として取り組んでいくことになります。簡単な調理法や各種の技能を身につけていくことは、将来の自立した生活に役立ちます。最近ではスーパーやコンビニエンスストアなどの普及により、お弁当や総菜が手軽に購入できますが、好きなものを自分で調理して食べることや、器具を使用して作品を仕上げることは、自閉症の人たちの趣味や楽しみを広げていくことにつながります。養護学校高等部卒業後は作業所や施設などで働くケースも多いため、学校教育の段階から各種の作業に関する経験を通して、真面目に作業に取り組んでいく姿勢や態度を身に付けていくことが必要です。

また、例えば、調理の内容に関しては、自閉症の子どもの特性を考慮して、あまり複雑な工程でない内容を選択し、調理のレシピ（文字や絵など、子どもの発達段階に応じた理解しやすいもので、作業の手順が明記されているもの）を作成し、手順（例えば、ボールに粉を入れる→卵を一個入

# 第一節 指導内容

れる→牛乳を100cc入れる→よくかきまぜるなど)に沿って作業を進めていくことや、一度きりで終了するのではなく、同じ内容のものを何回か続けて調理し、その手順に慣れていくなど、家庭にも協力してもらいながら繰り返し経験を積んでいくことが大切です。

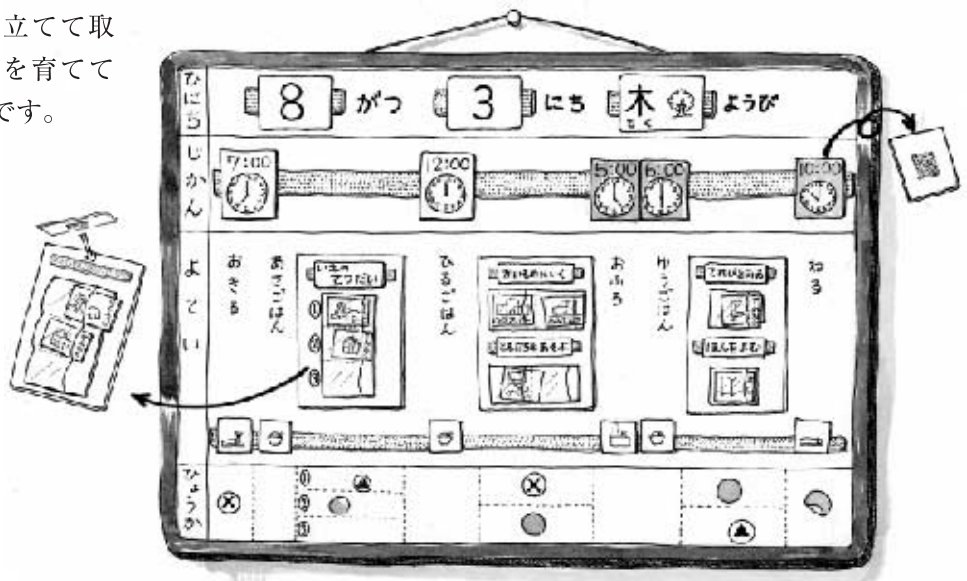
## 6. レジャースキル

自閉症の子どもたちの高等部卒業後の就労に関しては、地域差や個人差はあるものの比較的高い割合で就労ができていているという報告があります(小塩他,1996)。しかし、彼らの多くは仕事を終えた後や休日の過ごし方など、余暇の時間を十分に楽しめていない場合が多いと考えられます。自閉症の子どもの追跡調査からも、本人の興味・関心や意欲を尊重した生涯教育や余暇教育の充実が提言されています(東條,1991)。

自閉症の人の中には、芸術や音楽、自然科学などの領域で非凡な才能を発揮している人も少なくありません。その人の興味や関心を広げ、才能を十分に発揮できるような内容や、余暇の楽しみとして取り組んでいける活動を、学校教育の段階から見つけ出し、将来の余暇活動につなげていくことが必要でしょう。

## 7. セルフマネジメントのスキル

地域の中で自立した生活を営んでいくには、休日や余暇の時間の過ごし方について、自分で計画を立てて実行していく力が必要です。休み時間や放課後の時間、休日の過ごし方について、自分なりに計画を立てて実行していく力を身につけていくことは将来の自立した生活に役立ちます。自閉症の子どもの中には、学校の休み時間など、自由時間をどのように過ごして良いか分からず、かえって自由な時間を不安に感じてしまうことも少なくありません。学齢期の段階から、イラストに示すような簡易で分かりやすい予定表などを利用し、週末や休み時間の過ごし方について自分なりに計画を立てて取り組んでいく力を育てていくことが大切です。



### 8. 生活の中でよく利用する場所に慣れる

自閉症の子どもの中には、人や場所に対するこだわりが強いケースもあるため、生活の中でよく利用する場所や施設（病院などを含む）については、さまざまな機会を利用して、その場所や雰囲気に慣れていくことが必要です。例えば、トイレに関していえば、自宅や学校以外のトイレでも利用できるように、比較的利用しやすい場所でトレーニングを積んでいき、よく利用する施設のトイレであればどこでも利用できるように、段階を追って指導していくことが大切です。

### 9. その他の内容

上記の他、電話のかけ方や対応の仕方、挨拶の仕方などのコミュニケーションに関連する内容や、インターネットを利用した情報検索（知りたい情報を検索する手だてを身につけること）の仕方など、子どもの生活年齢や発達段階に応じて、将来の生活に役立つ内容を計画していく必要があります。言語や認知発達が比較的高い高機能の子どもであれば、社会生活ストーリーやコミック会話（Gray, 1998）<sup>注1</sup>などの技法を利用して、場面の読みとりやマナーの学習などに役立てることもできます。

また、こうした生活スキルの指導内容や手だてを明確にするには、個別の指導計画を作成して、目標や指導内容について検討していくことが必要です。個別の指導計画はさまざまな形式のものがありますが、子どもの生活地図や地域でよく利用する施設、休日の過ごし方などを明記している形のものもあります。

自閉症の子どもは、物事を相互に関係づけていく力（般化の力）が弱いため、指導内容に関しては各教科間のつながりを念頭に入れながら、系統性のある指導を継続的に進めていくことが大切です。特に生活スキルの指導に関しては、家庭と協力しながら、日常生活の指導や生活単元学習、遊びの指導など、領域・教科を合わせた指導と関連させて、体験的な指導を展開していくことが望まれます。

**注1）** 社会生活ストーリー、コミック会話：キャロル・グレイが提唱したもので、場面に応じたふるまいや言葉づかいなどについて、適切な対応の在り方を示した短いストーリーを作ったり、会話中に生じる発言を吹き出しにして考えることで、状況の理解を深めたり、人との関わり方、会話の仕方などの手がかりとして役立てていく技法。

#### 文献

Gray, C. (1998) : Social stories and comic strip conversations with students with Asperger Syndrome and high functioning children. In Schopler, E., Mesibov, G.B. & Kuncce, L.J. (eds.) Asperger Syndrome and High Functioning Autism?, Plenum.

#### 国立特殊教育総合研究所文献

小塩允護，東條吉邦，寺山千代子，武居孝男（1996）精神薄弱養護学校における年長自閉症児の進路指導に関する調査研究. 「年長自閉症児の進路指導に関する研究」特別研究最終報告書, 5-29.

東條吉邦（1991）自閉症児の社会的自立へ向けての学校教育と家庭教育. 「自閉児の追跡調査による教育の内容・方法に関する研究」特別研究報告書, 47-50.